

情報通信審議会 情報通信技術分科会 陸上無線通信委員会
公共ブロードバンド移動通信システム高度化作業班（第1回） 議事録（案）

1 日時

平成 28 年 12 月 15 日（木）14 時 00 分～15 時 20 分

2 場所

中央合同庁舎第 2 号館 総務省 10 階 共用会議室 2

3 出席者（敬称略）

構 成 員 : 藤井主任、原田主任代理、阿部構成員（代理）、石垣構成員、小竹構成員、小野構成員、柿木構成員、加島構成員、加藤構成員、金澤構成員、川瀬構成員、岸構成員、小林構成員、佐藤構成員（代理）、庄司構成員、中村構成員、浜口構成員、福田構成員（代理）、八木構成員、山崎（高）構成員、山崎（浩）構成員
 事務局（総務省）：（重要無線室）近藤室長、石田課長補佐、川津原係長、加納官

4 配付資料

資料作 1-1 「公共ブロードバンド移動通信システムの高度化に関する技術的条件」の検討について
 資料作 1-2 「公共ブロードバンド移動通信システムの高度化に関する技術的条件」に関する検討の進め方
 資料作 1-3 公共ブロードバンド移動通信システム高度化作業班の検討方針について（案）
 資料作 1-4 公共ブロードバンド移動通信システムの海上利用について
 参考資料 平成 21 年 4 月 28 日諮問 諮問第 2028 号「公共ブロードバンド移動通信システムの技術的条件」に対する 答申（一般条件及び無線設備の技術的条件の抜粋）

5 議事

- (1) 情報通信審議会への諮問及び検討の進め方について、事務局より資料作 1-1 及び資料作 1-2 に基づいて説明が行われた。
- (2) 作業班の検討方針について、事務局より資料作 1-3 に基づいて説明が行われた。また、藤井主任により原田構成員が作業班の主任代理として指名された。
- (3) 公共ブロードバンド移動通信システムの海上での利用に係る技術的条件について、事務局より資料作 1-4 に基づいて説明が行われた。なお、主な質疑等は以下のとおり。

山崎（浩）構成員 資料作 1-4 の 9 ページ「使用した船舶の諸元」について、大型船舶と小型船舶の欄が逆になっているので、修正が必要と思料。

事務局 了。

藤井主任 6 ページ「K=40」の表記について、「K=40[dB]」と修正すべきではないか。

事務局 了。

川瀬構成員 フェージングマージンの数値について、15 ページ、16 ページにあるものと 9 ページ、10 ページにあるものがそれぞれ一致していないのでは。

事務局 フェージングマージンについては、14 ページの表の値を参照願いたい。

原田主任代理 7ページの「COST 207 Rural Area モデル」を使用することが適当とあるが、計算式等その根拠がわかるような情報を追記すべき。

事務局 了。

藤井主任 「COST 207 Rural Area モデル」は、2波モデルに建造物からの反射波が混ざったようなモデルか。

事務局 然り。

庄司構成員 15ページ、16ページ「湾内」及び「湾外」の表記は、「湾」が場所を限定してしまう印象があるため、「港内」及び「港外」とした方がよいのではないか。

事務局 了。ほかのページについてもそのように修正する。

金澤構成員 データを測定した場所については、地図や測定環境等の情報があつた方がわかりやすいので、記載した方がよいのではないか。

事務局 了。

浜口構成員 9ページについて、測定に使用した船舶よりも大型の船舶に搭載予定はあるのか。また、環境雑音の発生要因は何か。

加藤構成員 船舶については、測定に使用したものよりも大きなものはあると思料するが、今回測定に使用した大型船舶は、実際のニーズを踏まえたもの。

また、環境雑音の発生要因についてだが、フェージングマージンについて、大きい船舶ほど揺れが安定しており、マージンが少なくなるため、小さな船舶のマージンを使用している。そのため、これより大きな船舶であれば、問題なく使用できると思料。測定箇所は東京湾、相模湾及び横須賀周辺である。

雑音の種類としては、自然発生的なものだけではなく、人工的な雑音も一部加味されているが、成分分析までは至っていない。しかし、今回の資料にあるデータは、人工的なものを除いた限りなく自然に近いデータである。

山崎(高)構成員 3ページ「伝搬損失距離特性」とあるが、これは海を越えて減衰するものか。

加藤構成員 然り。

山崎(高)構成員 4ページ「アンテナ高」の記載があるが、これは波の高さを指しているのか。

加藤構成員 アンテナ高とは、地上からの高さをいい、地上とは防波堤や船着き場をいう。実際の海面からのアンテナ高は、4ページに記載のアンテナ高と海面の高さを足した数値になる。海面については、時間の変動とともに潮位が変動するため、アンテナ高についても、それと連動して変動するものである。

藤井主任 4ページに記載の「海面：2.9m」とは、測定した潮位の中心の数値か。

加藤構成員 そうではなく、測定を始めた時点の海面の高さである。

藤井主任 4ページにある高さについての記載は、わかりやすく修正してほしい。

事務局 了。

小竹構成員 13ページの環境雑音特性について、測定した時刻についても記載すべきでは。

事務局 了。

石垣構成員 4ページの受信電力長期変動の表について、受信電力の相対値の記載がある

が、この単位は dB か。

事務局 然り。[dB]に修正する。

石垣構成員 7 ページの表について、受信電力の単位が[dB]となっているが、[dBm]では。

事務局 然り。[dBm]に修正する。

岸構成員 5 ページにフェージングマージンに影響を与える要因について記載があるが、この要因から鑑みると、波の絵については、もっと高いイメージの方が良いのでは。

事務局 了。

柿木構成員 船舶の揺れによるフェージングについては、停泊している場合と走行している場合では異なってくるので、測定時の条件について記載していただきたい。

事務局 了。

(4) その他

事務局から今後の作業班の日程について、第2回は1月24日（火）、第3回は2月28日（火）を予定している旨の連絡があった。

(閉会)